

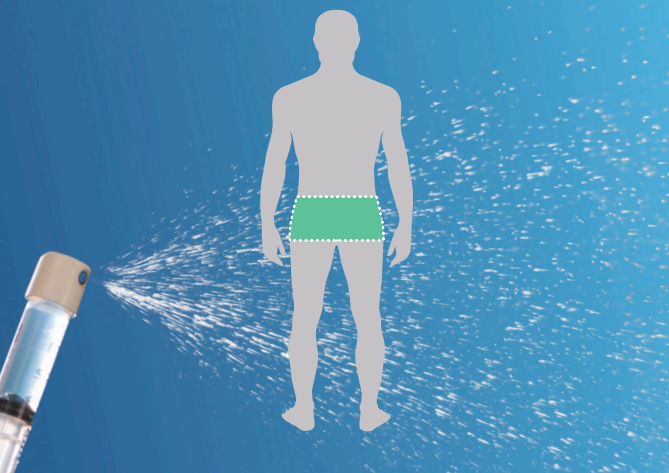
CASE STUDY

Nicole Kopari, MD / Department of Surgery at the University of California San Francisco, Fresno, CA

患者の状態

入浴時、臀部に4% TBSAの高温液体による熱傷を受傷した88歳男性。事前の病歴には、心房細動、脳卒中、慢性腎疾患、高血圧、脂質異常症が含まれている。

RECELL 治療部位



結語

本症例では、共存疾患を持ち、創傷治癒遅延リスクがある高齢者の治療困難な部位の治療が示されている。RECELLを使用した事により、治療の翌日に患者は退院できた。自家細胞からなるSpray-On Skin Cellsを使用することで、術後8日目には再上皮化、1か月目には明らかな色素再生が得られるという結果が得られた。

本紙に掲載している症例は、臨床成績の一部を紹介したものです。全ての症例で同様の効果を保証するものではありません。

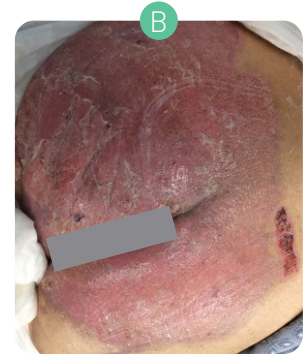


共存疾患のある高齢患者の治療困難部位の治療

初回デブリードマン



術後8日



術後1か月



治療法

初回デブリードマン実施後(図A)、創部のドレッシング交換をXeroform[™] / バシトラシンを使用して行った。熱傷受傷から10日後、創部デブリードマンを行い、Spray-On Skin[™] CellsをRECELL[®]システムで作成した。細胞懸濁液を損傷を受けていない真皮の上に直接適用した。創部の被覆にはTelfa[™] Clear、その上からXeroform及び厚みのあるドレッシング材を使用した。

臨床的アウトカム

術後1日、患者は退院し帰宅。術後8日に創部が完全上皮化したため、クリニックで一次ドレッシング材を除去した(図B)。術後1週間が経過するまでに色素の再生が明らかとなった(図C)。図BとCの右下にあるように、Spray-On Skin Cellsを作成に必要なとなった採皮面積は最小限で済んだ。